

防災減災・県土強靱化対策 特別委員会資料

令和6年12月6日
教育委員会

児童生徒の避難行動の変容に係る取組について

1	本県の安全教育について	3
2	取組の実際について	4
	(1) 研修の実施	
	(2) 避難訓練の実施	
3	学校における新たな取組について	6
	(1) デジタルツールを活用した防災学習	
	(2) 大学等と連携したフィールドワーク	
4	今後の取組について	6

児童生徒の避難行動の変容に係る取組について

Ⅰ 本県の安全教育について

本県の安全教育は、学校安全の3領域（災害安全、生活安全、交通安全）について包括的な安全推進に取り組んでいる。現在、セーフティプロモーションスクール（SPS）※の認証に向けた取組を推進し、その成果等を県内の学校に広め、各学校が実態に即した取組を実践することで、目指すべき児童生徒の育成を図っている。

なお、防災教育については、これまで東日本大震災や熊本地震などを契機に問題意識を高めながら、都度、研修や避難訓練などの取組の見直しを進めてきた。

防災教育における目指すべき児童生徒の姿について

【自助】災害が発生したときに、自分自身の身の安全を守ること

- ・ 防災教育等で学んだり、経験したことを自分自身で選択し、実際の行動に活用できる。

【共助】地域やコミュニティといった周囲の人たちと協力して助け合うこと

- ・ 高校生は地域のリーダーとして期待されているため、避難行動が発生した際にリーダー役も担い、協力しながら行動できる。

※セーフティプロモーションスクール（SPS）

教職員・児童生徒・保護者、地域や関係機関が『チーム学校』として組織的かつ継続的に学校安全に取り組んでいる学校

- 令和5年度末現在、県内では11校が認証（全国3位）
- 令和6年度も県指定推進校の2校が、学校安全に関する研究や指導者の養成を行いながら認証を目指して活動中

セーフティプロモーションスクール（SPS）認証校一覧

年度	小・中学校	県立学校
令和2年度	門川町立門川中学校	門川高等学校
令和3年度	宮崎市立久峰中学校	佐土原高等学校
令和4年度	高鍋町立高鍋西中学校 高鍋町立高鍋東中学校	高鍋農業高等学校
	日南市立飫肥中学校	日南高等学校
令和5年度	延岡市立南中学校	延岡工業高等学校
令和6年度	日向市立細島小学校	富島高等学校

児童生徒の避難行動の変容に係る取組について

2 取組の実際について

(1) 研修の実施

ア 推進校における研修（被災地の訪問等）

SPS認証に向けた活動を行う推進校では、代表生徒が東日本大震災の被災地（宮城県等）を訪問し、震災遺構の視察や現地の高校生との交流を通して、災害を自分事として捉えることの大切さを学んでいる。

訪問後、各種研修会等で報告するなど、県内へ広く啓発している。



【宮城県被災地訪問の様子】

イ 県立高校を対象とした研修（高校生防災・学校安全研修会）

県内3会場で全県立高校の代表生徒と教職員を対象に、防災・学校安全に係る研修を実施している。

今年度は、県危機管理課と連携して、簡易のテント・トイレ・ベッドの設置など災害時の避難所運営について体験した。



【避難所運営体験の様子】

ウ 各学校における研修（専門家による研修等）

各学校においては、自分たちでは予測できない災害に対する対応を行うため、自衛隊などの専門家を招聘し専門的な知識を身に付けるとともに、実際の機材を使用した被災者救助のデモンストレーションを見学するなど実践的な研修を実施している。



【自衛隊による研修の様子】

エ 指導者養成のための研修（防災教育指導者養成研修）

学校における防災教育の中心的役割を担う人材を養成する。防災士資格を有する職員がいない学校については、職員が防災士養成研修を受講し資格を取得している。

(2) 避難訓練の実施

ア 関係機関と連携した避難訓練

市町村の危機管理担当課などの関係機関と連携しながら、学校が作成している危機管理マニュアルに基づき、避難訓練を実施している。

また、避難訓練実施後に課題の洗い出しを行い、危機管理マニュアルの改善・見直しを行っている。



【関係機関と連携した避難訓練】

イ 地域と連携した避難訓練

中学校・高校の生徒が、小学校低学年の児童の手を引きながら避難するなど、異校種合同での訓練などを実施している。

また、学校外への避難や危険な場所の確認などを、様々な場面での被災を想定しながら、地域の方々と協働して行うことで、地域の課題を共有し、避難経路における危険箇所等の改善に取り組んでいる。



【地域と連携した避難訓練】

ウ より実践的な避難訓練

様々な事態を想定し、校舎の崩壊を想定して障害物を置いたり、負傷者や逃げ遅れる生徒を設定したり、異なる複数の避難経路を示したりするなど、災害の規模や種類によってより実践的な避難訓練を実施している。



【より実践的な避難訓練】

3 学校における新たな取組について

(1) デジタルツールを活用した防災学習

五ヶ瀬中等教育学校において、アプリを活用して五ヶ瀬町内の洪水ハザードマップを3D化する取組を行い、ハザードマップで示された内容をストリートビュー等のリアルな画像で確認し、最大でどの高さまで浸水する可能性があるか予想するなどの学習を行った。

また、GIS(地理情報システム)を活用して、静岡県熱海市で発生した土砂災害を事例に、地図上に土石流のルートや地形の構造データを重ね合わせて、災害発生地域の状況について考察するなどの学習を行った。

(2) 大学等と連携したフィールドワーク

五ヶ瀬中等教育学校が、九州大学・京都大学と連携し、宮崎市青島地区周辺において、日南高校とともに津波避難訓練アプリ「逃げトレ※」等を活用した避難訓練を実施した。

実施後、地域の防災力向上につなげるため、地域住民や行政機関など様々な立場の方々と対話を行った。

※「逃げトレ」…自分の避難行動と津波浸水状況の時間変化をスマートフォンの画面上で確認しながら避難訓練ができるアプリ



【フィールドワークの様子】

4 今後の取組について

いつどこで発生するかわからない災害に備えるため、これまでの研修や避難訓練をさらに充実させるとともに、五ヶ瀬中等教育学校の取組などを県内各校で共有しながら、児童生徒が災害を自分事として捉え、より実践に即した行動へと変容するような取組を推進していく。